



2011年2月9日

## AGC、カバーガラスの旺盛な需要に対応し 化学強化用特殊ガラスの生産能力を拡大

### 電子用フロート窯を新設し「Dragontrail™」の供給体制を強化

**AGC** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、モバイル端末などの電子機器用カバーガラスの世界的な需要増加に対応するため、「Dragontrail™」などの化学強化用<sup>※1</sup>特殊ガラスを製造する電子用フロート窯を新設します。

新窯は、約200億円を投じてAGC高砂工場（兵庫県高砂市）に建設、2011年下期に稼働を開始する予定です。

現在、モバイル端末の市場は急激に拡大しており、スマートフォンは年率約40%<sup>※2</sup>、タブレットPCは年率約90%<sup>※3</sup>の市場拡大が見込まれています。これらの機器は、タッチパネル搭載型が主流となっており、その表面を保護するカバー材として、傷や衝撃に強い化学強化ガラスに対するニーズが高まっています。AGCはこのニーズにこたえ、強度と耐傷性に優れた化学強化用特殊ガラス「Dragontrail™」を新たに開発し、本年1月より販売を開始しましたが、拡大を続ける市場の旺盛な需要に対応するため、高砂工場に電子用フロート窯を新設し、供給体制を強化することとしました。

この新窯は、フロート法による高い生産効率とガラス板厚のフレキシビリティを持つことに加え、AGCがこれまで培った電子用特殊ガラス製造技術の粋を集め、将来、より進化した化学強化用特殊ガラスの製造にも対応できます。AGCでは、既存の電子用フロート窯に、この新窯を加えることで、拡大が続く世界の化学強化ガラス市場において、シェア30%を担う供給体制が整います。

AGCは経営方針 *Grow Beyond* で掲げた「成長基盤の構築」の実現に向け、市場のニーズにこたえる「Dragontrail™」などの化学強化用特殊ガラスを、成長の柱の一つとなる重要な戦略製品と位置付け、拡販と新たな用途の開拓に努めます。

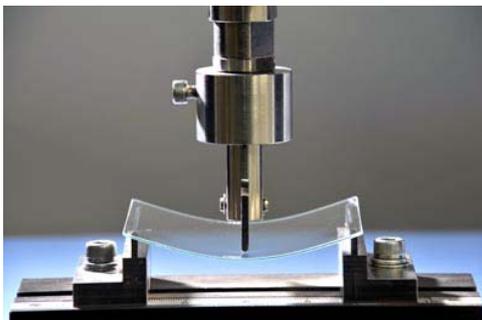
※1 化学強化：ガラス素板を薬品に浸すことで表層を化学的に強化する技術

※2、※3：2010年～2013年の年平均成長率。（出典）ディスプレイサーチ

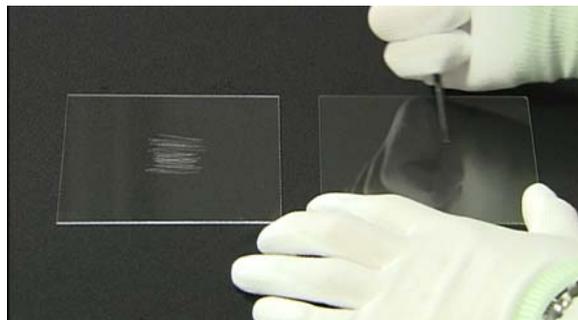
◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC**旭硝子(株)広報・IR 室長 上田 敏裕  
（担当：戸張・若杉 TEL：03-3218-5509、E-mail：info-pr@agc.com）

<参考資料>

### 【化学強化用特殊ガラスDragontrail™】

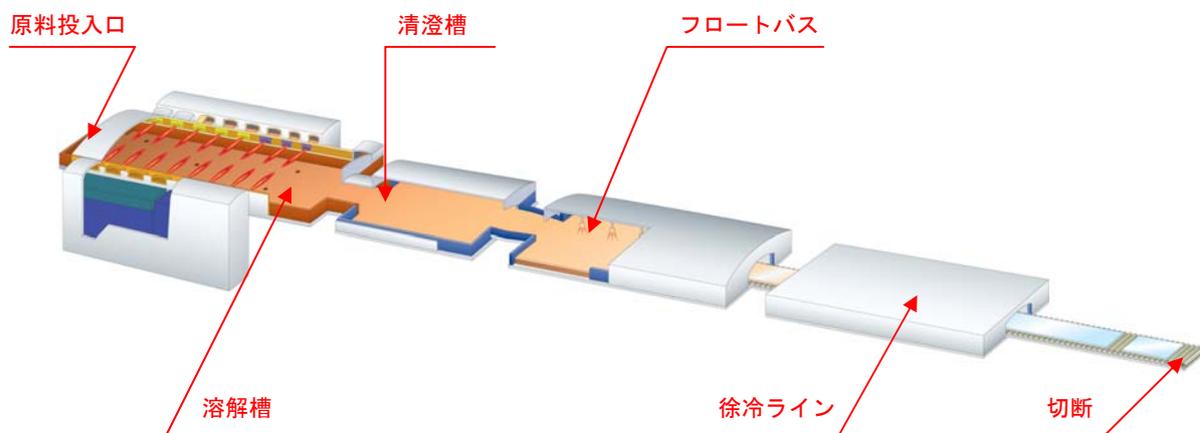


強度試験  
(3点曲げ試験：ガラス板厚1.1mm)



耐傷性試験  
(アクリル樹脂との比較)

### 【電子用フロート窯のイメージ】



フロート法とは、溶かしたガラスを溶けた錫に浮かべることで、表面張力を利用して均一で平らなガラスを作る製造方法。大面積のガラスを効率良く生産することが可能です。

### 【Dragontrail™の供給可能板厚・サイズ】

- 板厚
  - ・0.5～5.0mm以上まで幅広い板厚を生産可能
- サイズ
  - ・ご要望に応じて対応可能